

はなし
テーマ 話をつくろう

A black and white illustration of a man and a woman. The man on the left is wearing a plaid shirt and a tie, holding a mobile phone to his ear with a smile. The woman on the right is wearing a light-colored jacket over a dark top, also holding a mobile phone to her ear. They are separated by a vertical zigzag line, suggesting they are in different locations. The background includes a desk with a lamp and pens for the man, and a potted plant for the woman.



学習者のレベルによって、(1)～(3)のような練習方法が考えられます。

(1)初級後半の学習者の場合

〔二人一組になり、男女それぞれの登場人物になって、会話をつくる。〕→〔皆の前で発表する。〕

例 (絵A→B→Fを選んだ場合)

絵A) 男：マリさん、今度の日曜日に映画を見に行きませんか。

女：いいですね。何の映画を見ましょうか。

男：「エピータ (映画の題名)」はどうですか。

女：いいですね。じゃ、10時に映画館の前で会いましょう。

絵B) 男：すみません、朝寝坊して遅れてしまいました。

女：もう映画は始まっていますよ。急いでください。

絵F) 女：おもしろい映画でしたね。

男：そうですね、でも始めの部分は見られませんでしたね。

来週、もう1度見に行きませんか。

女：今度は遅れないでくださいね。

(2)初級後半以上の学習者の場合

〔絵の中の登場人物の一人になり、一人で話をつくる。〕→〔発表する。〕

例 (絵F→D→Aを選び、女の人になって話をする場合)

絵F) 来月、友だちのブラウンさんが結婚するので、ひろしさんと結婚のプレゼントについて話しました。二人で相談して、ブラウンさんに時計をあげることにしました。

絵D) ひろしさんといっしょにデパートへ時計を買いに行きました。いろいろな時計がありましたが、どれがいいか決められませんでした。それで、デパートでは何も買いませんでした。

絵A) その後でもう1度ひろしさんと電話で相談して、来週ほかのデパートへ行ってみることにしました。プレゼントを選ぶのは本当に難しいです。

(3)中級の学習者の場合

〔登場人物の一人から話を聞いたという設定で話をつくる。〕→〔発表する〕

例 (絵E→C→Fを選び、男の人から話を聞いたという設定の場合)

わたしの友だちのひろしさんのことを話します。

ひろしさんにはマリさんというガールフレンドがいるそうです。二人はいつもいっしょにいるのですが、つまらないことでけんかすることもよくあるそうです。

たとえば、この間は、食べ物のものでけんかになったそうです。その日はマリさんの誕生日で、二人で日本料理を食べに行ったそうです。ところが、天ぷらとおすしとどちらがおいしいかという話になって、とうとうけんかになってしまったらしいのです。

でも、この二人は、けんかをして、いつも10分もしないうちに仲直りするそうです。けんかをするのは仲がいい証拠なのかもしれません。

他にも、学習者が順番に交代で、話を続けていく練習なども考えられます。いろいろ工夫してみてください。

参考文献

『日本語コミュニケーションゲーム80』CAGの会編、The Japan Times (1993) — (第1章-23)には絵に沿って手順を説明する練習、(第2章-63)には、4コマまんがを使った練習が載っています。
『絵で学ぶコミュニケーション<会社・生活編>20のトピック』(絵教材及び教え方マニュアル) 松本久美子、川越奈穂子、高岸雅子著、凡人社 (1991)

今回は絵を使って会話やまとまった話をする練習を考えました。この他に日本のマンガやみなさんの国のマンガや絵を使って、学習者の想像力をいかした練習をしてみましょう。それでは、また。

このコーナーの担当者：久保田美子、八田直美 (日本語国際センター専任講師)

